



● 創立 40 周年を振り返って 今後の取り組み

複合資材株式会社

代表取締役社長 尾藤 正儀

1975年2月1日会社設立から40年の月日が流れました。振り返ってみますとその間何度も破たん危機にあい、何とか潜り抜けて今日に至っております。最初の危機はエアゾールに使う溶剤・塩素系溶剤とフロン系溶剤の生産中止、フロン系液化ガスの生産中止により不燃性のスプレーが石油系に大きく変更せざるを得なかったこと、2番目はリーマンショックによる大不況、3番目は東北の大震災及びタイの洪水、4番目は円暴落による石油製品の暴騰による仕入れの値上がり現在も継続中。このように次から次へ難題が降りかかって一層の改革が求められています。

今後の改革の取り組みとして

1. 海外への取り組みを加速させる

タイ、中国、インドネシア、フィリピン等への取り組みの強化

2. 圧縮ガスを使った製品の開発

弊社製品の主力を占める工業用エアゾールは、一般的にプロパンやブタンのような液化石油ガス、DMEのような液化ガスが噴射剤として用いられますが、これらのすべて、または一部を窒素や二酸化炭素などの圧縮ガスに置き換える製品の開発に取り組んでおります。

メリットとして原材料コスト低減、使用済み容器の再利用などが挙げられます。一方デメリットとしては噴射時の微粒化が良好とは言えないため均一な塗布が難しく、また高粘度の製品には不向きであることです。

弊社ではバルブやアクチュエーターといったエアゾールを構成する部材種の選択や、製品原液の設計などで製品化可能なレベルに達したのから順次お客様に提案して参ります。技術的には現行品の半数程度の置換えが可能と考えております。

3. 環境考慮品のラインナップの拡充

近年では大手のユーザーを中心に、環境関連法規制に該当する製品が敬遠さ

れる傾向が強まっており、PRTR法や特化則法などの対象物質を含有していると使用不可となるケースが目立ちます。

これらの動きに対応するため環境考慮品、所謂エコ製品の開発に力をいれております。

まずエコ化の第一弾として、PRTR、有機則等の規制対象外で且つ、十分な洗浄力を有した洗浄剤「マイティークリーナー」を昨年発売しました。これを先駆けとして既存製品を環境考慮品に置き換える検討を順次進めております。また併行して有機溶剤を使用せず、各製品を水性化する検討も開始しており、これを2の検討と組み合わせれば引火性のないエアゾールの供給も可能となります。

4. 新規分野「コーティング剤」の確立

さらに、プラスチック成型業界に特化しない汎用性の高い商品として、各種コーティング剤の開発に力を入れております。これまでにフッ素コーティング、湿気硬化型ウレタン塗料、ストリップバブル塗料、シリコンゴムコーティングなどをエアゾールとしてすでに商品化しており、続いて現在は水性ウレタンコーティングを開発中です。

今後もこの分野の幅を広げて弊社製品の新たな柱にしていきたいと考えております。

5. 廃棄物のゼロへの取り組み

大変難しい課題ですが、現在弊社においては廃棄物ゼロへの取り組みも行っております。

大量に出る廃棄物でお困りの方が多々おありだと思いますが、弊社と一緒にゼロへの取り組みを始められてはどうでしょうか、よろしければ協力させていただきます。ご一報ください。

これからも皆様に喜んで使っていただける商品の開発にまい進して行くつもりであります。